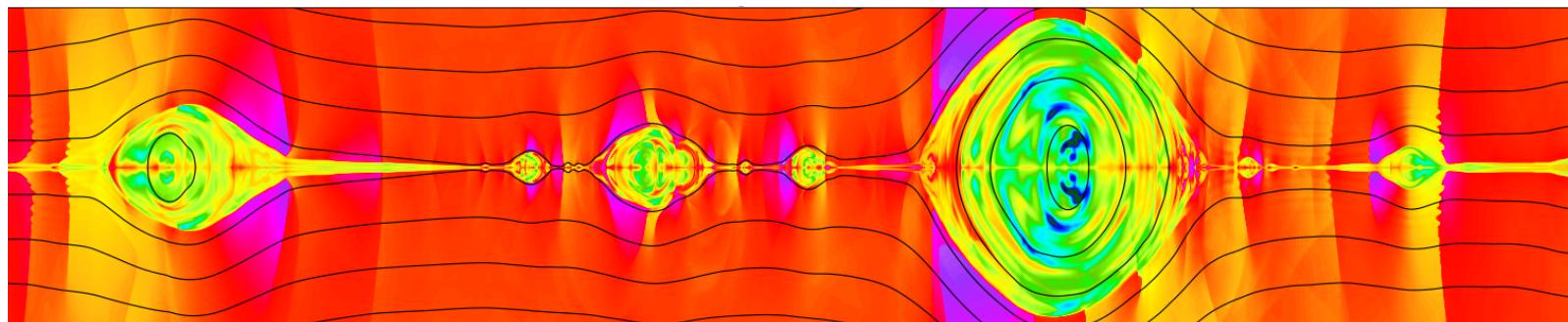


プラズモイド型乱流リコネクションの 磁気流体シミュレーション研究

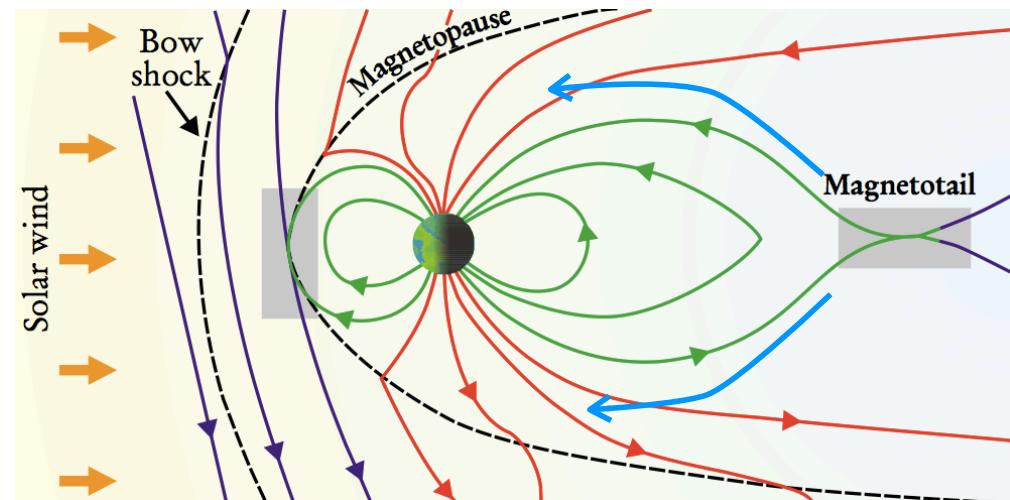
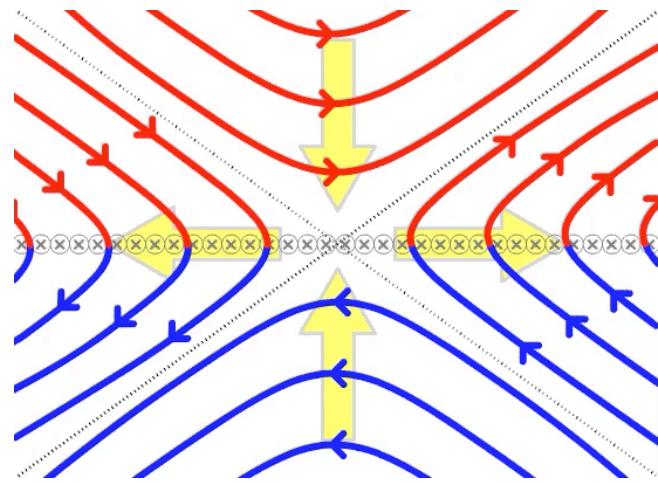
銭谷誠司（神戸大学）・三好隆博（広島大学）



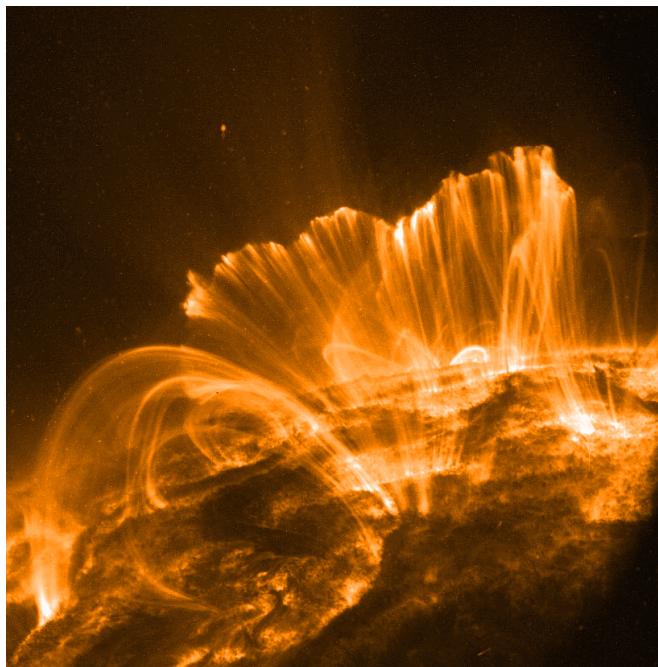
もくじ

- ・ プラズモイド型乱流リコネクションの
MHDシミュレーション
 - ・ 磁気圧優勢：低 β ($\beta < 1$) の場合
 - ・ 縦衝撃波の生成
 - ・ プラズマ圧縮効果によるリコネクションレートの高速化
 - ・ 密度非対称の場合
- ・ シミュレーションコード：OpenMHD
 - ・ GPU移植・クラウド

磁気リコネクション

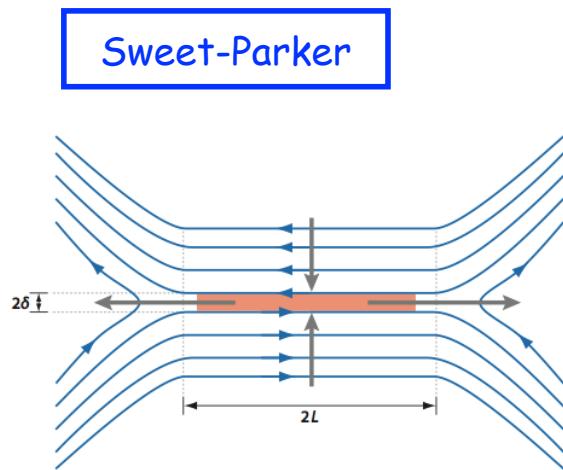


Day 2001

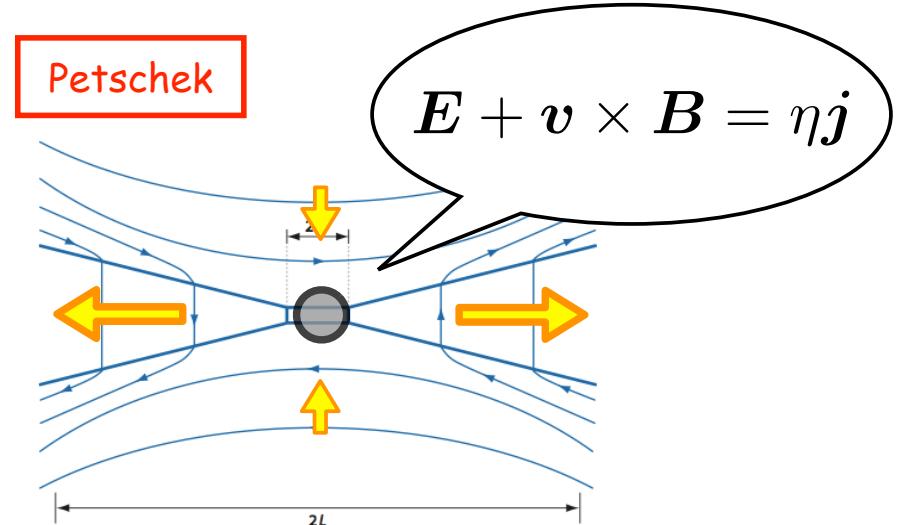


- ・ 磁気トポロジーを変え、エネルギーを解放
- ・ 解明すべき課題：
 - ・ オンセット（トリガー）
 - ・ **エネルギー解放効率**
 - ・ 高エネルギー粒子の加速
 - ・ 他のプラズマ過程との相互作用

磁気リコネクションのMHDモデル

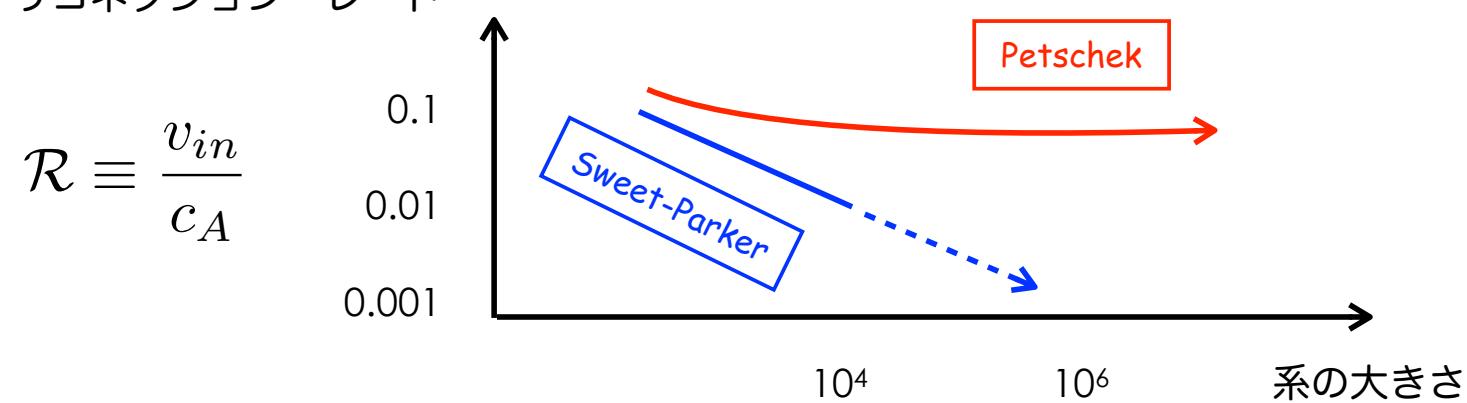


Sweet 1958, Parker 1957

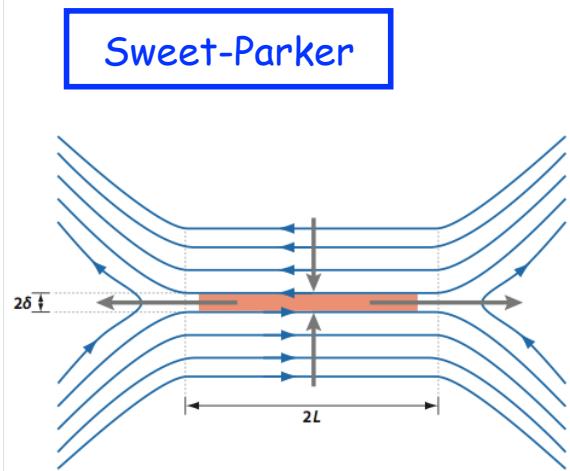


Petschek 1964

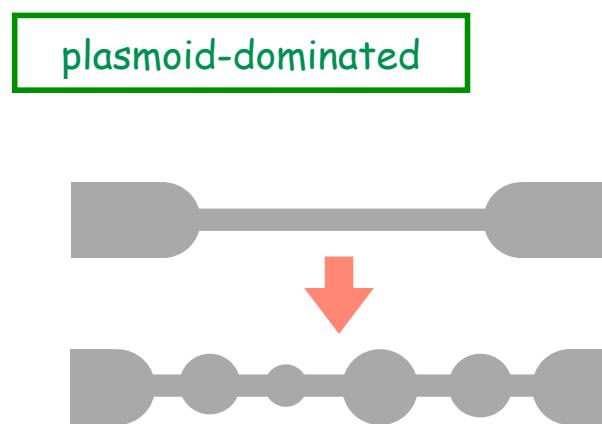
リコネクション・レート



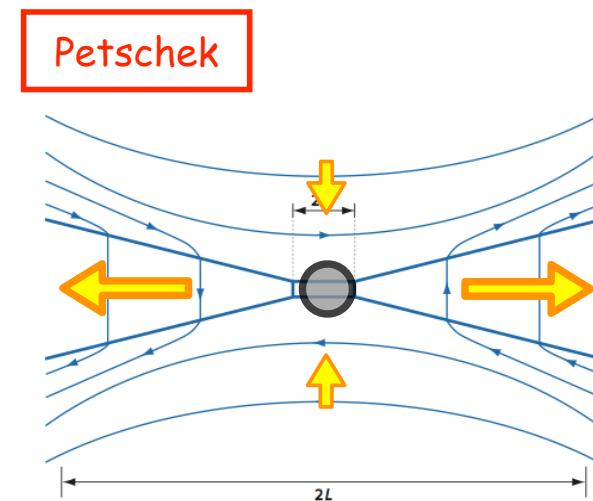
磁気リコネクションのMHDモデル



Sweet 1958, Parker 1957



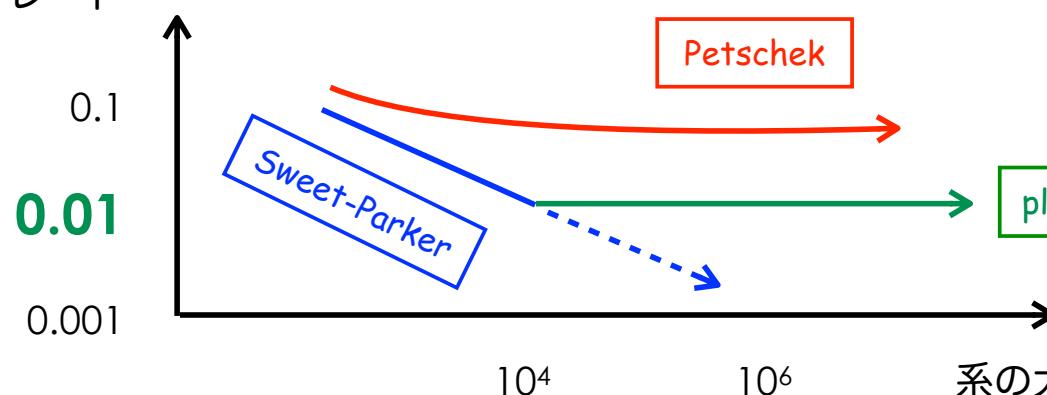
Loureiro 2007, Bhattacharjee+ 2009



Petschek 1964

リコネクション・レート

$$\mathcal{R} \equiv \frac{v_{in}}{c_A}$$



Petschek

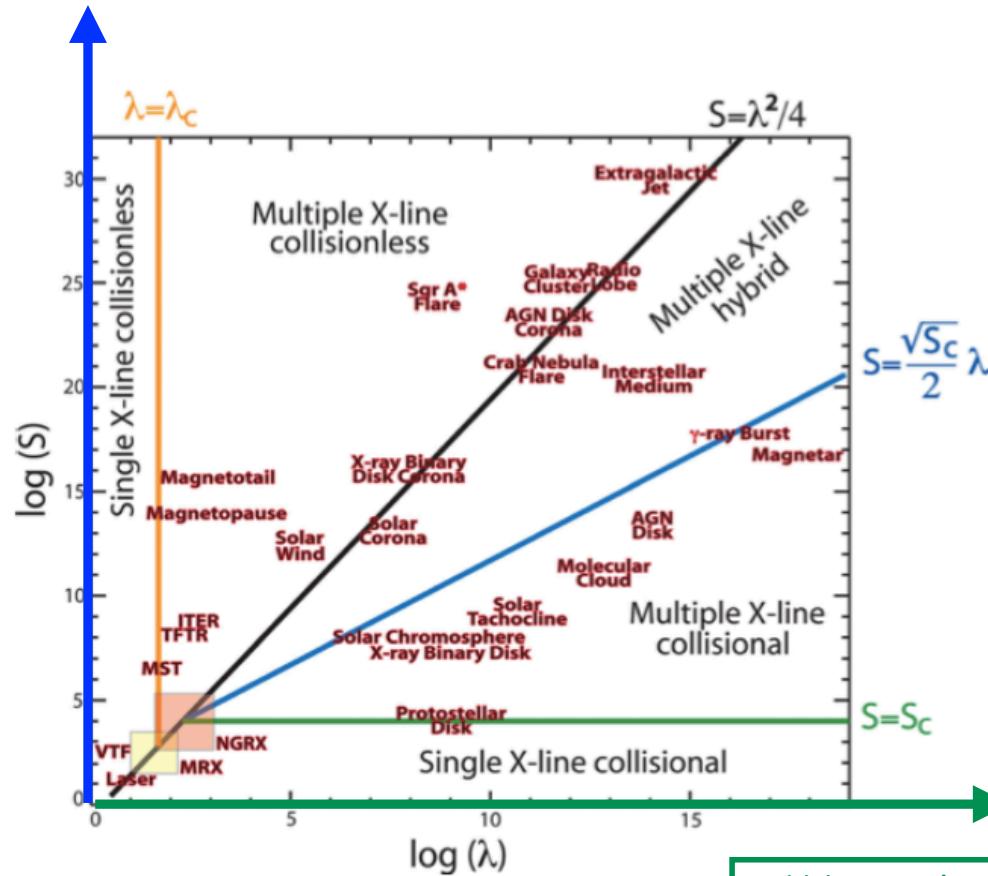
定説：レートは
一定 ~ 0.01

plasmoid-dominated

磁気リコネクションのフェイズ・ダイアグラム

Lundquist数
(領域サイズ)

Bhattacharjee+ 2009,
Uzdensky+ 2010



磁場反転層の厚み
(運動論効果)

- 2次元パラメーター空間に
リコネクションの形態がマッピングされた
- 2010年前後に定着した理解

Ji & Daughton 2011, Huang+ 2011

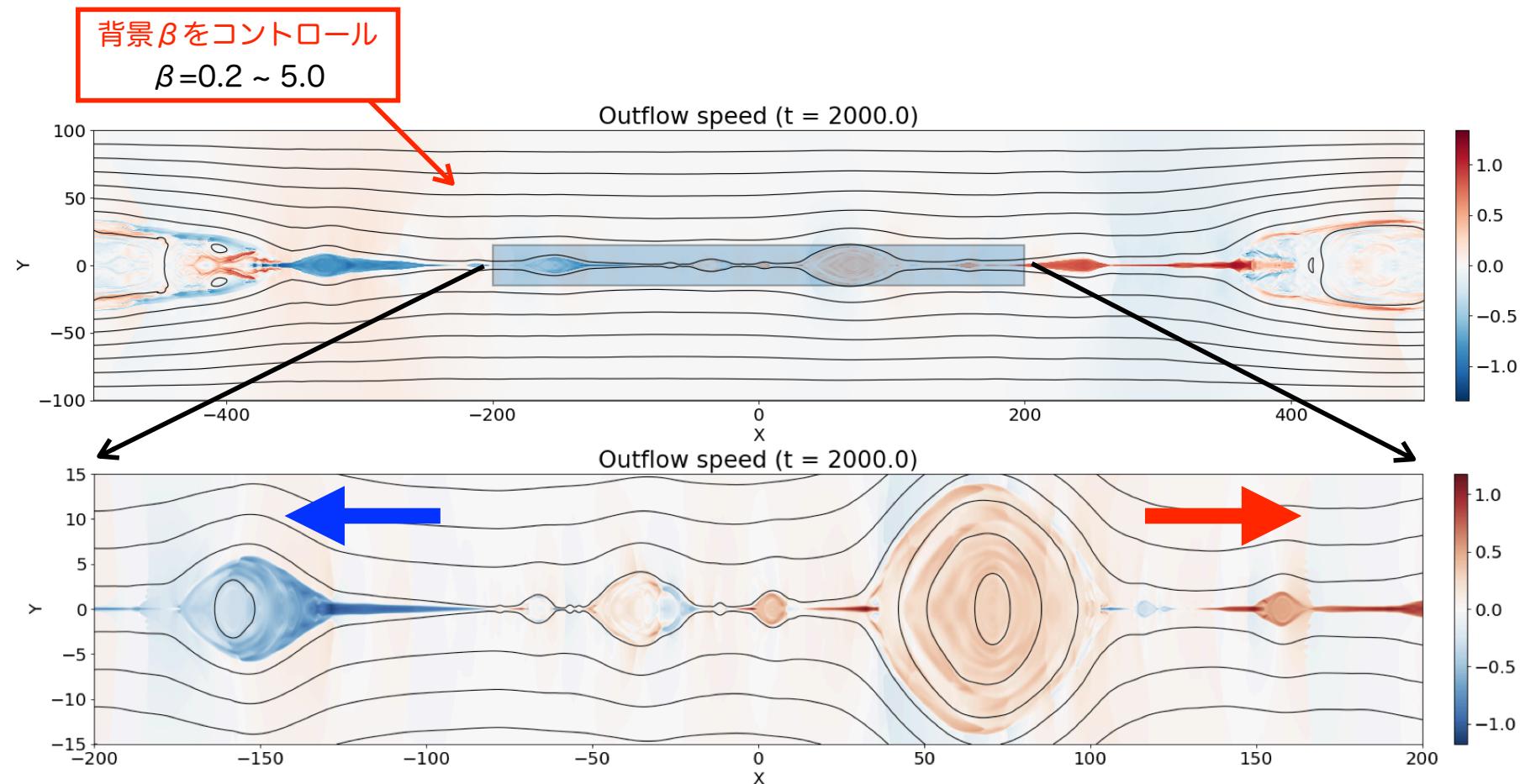
太陽コロナのプラズマ β



$$\text{プラズマ } \beta \quad \beta \equiv \frac{p_{\text{gas}}}{p_{\text{mag}}}$$

MHDシミュレーションで検証

MHDシミュレーション

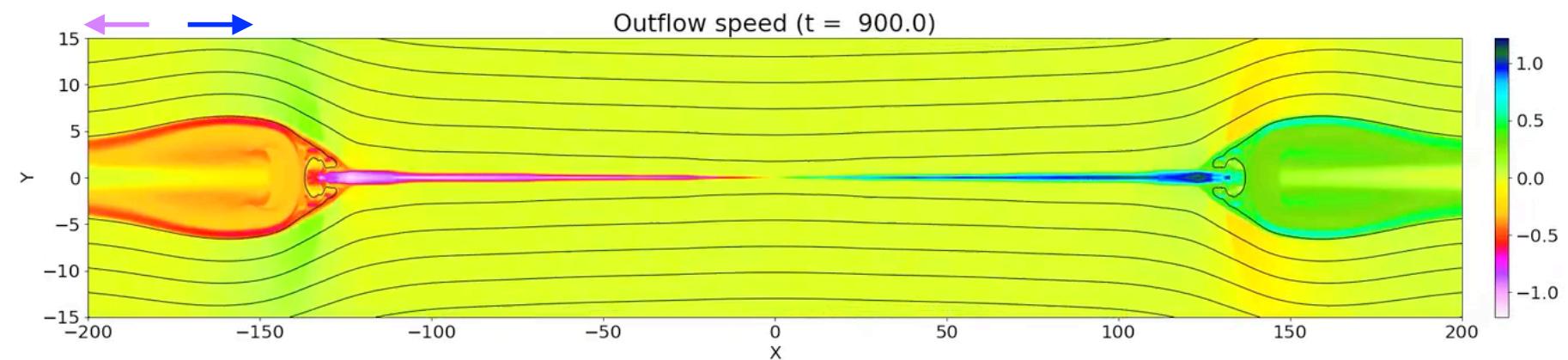


- $\eta = 1/1000$, $S_L = 2.5 \times 10^5$ for $L_{cs} = 250$
- $30,000 \times 3,000 (\times 2)$ グリッド
- スパコン 500コア あるいは高性能GPU 1枚 (NVIDIA A6000)

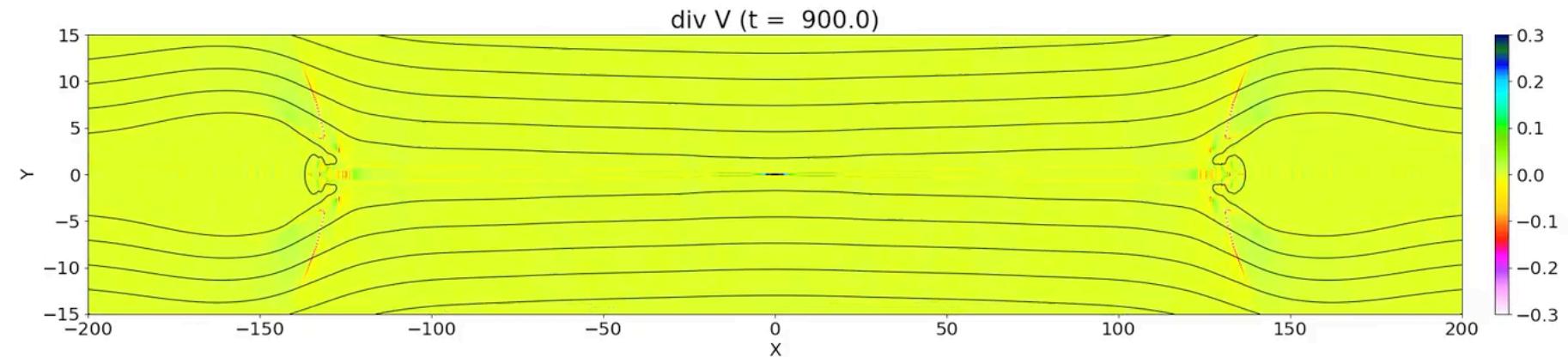
MHDシミュレーション

- https://sci.nao.ac.jp/MEMBER/zenitani/files/b02_outflowB.mp4
- https://sci.nao.ac.jp/MEMBER/zenitani/files/b02_divvB.mp4

ジェット速度 (V_x)



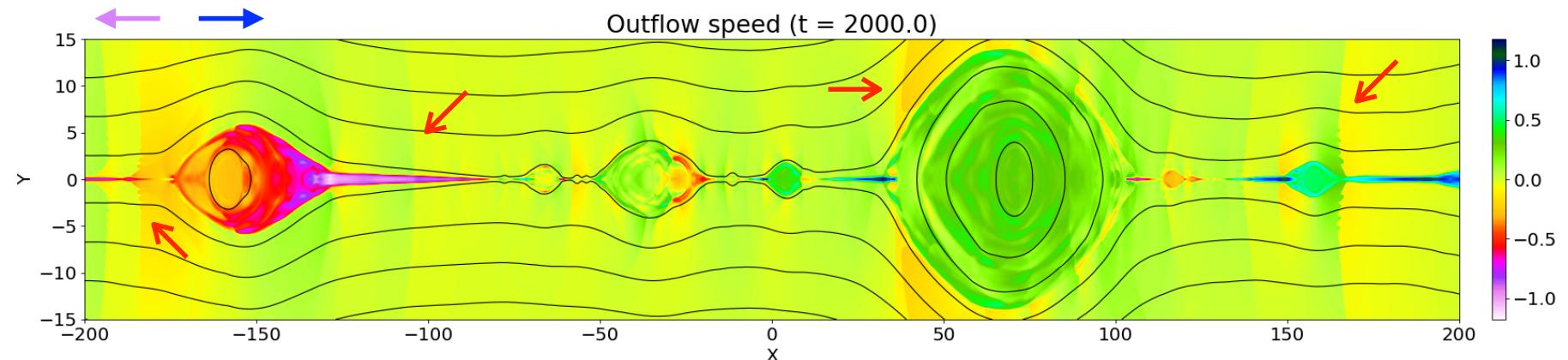
div V - 赤色が圧縮領域



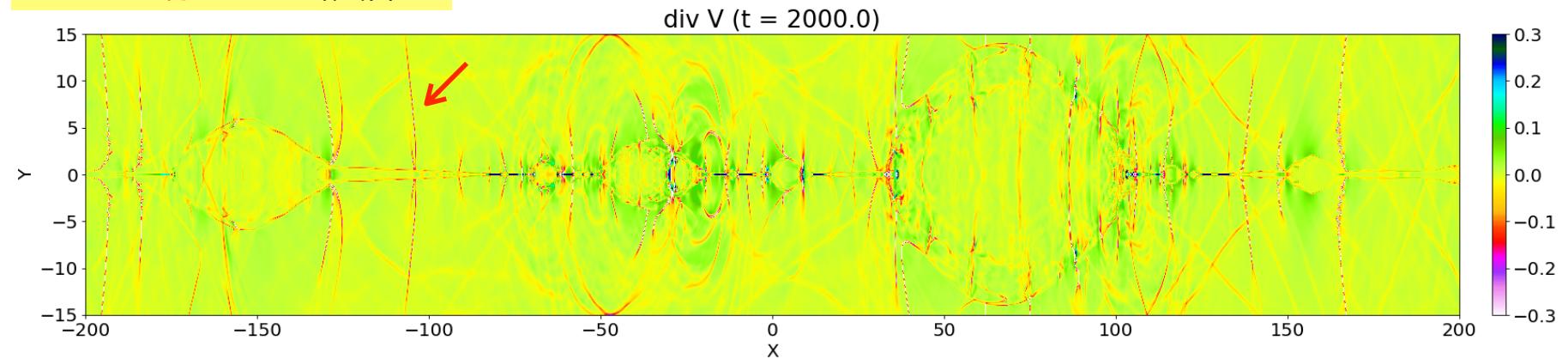
縦衝撃波の発見

- ・ 縦衝撃波が領域内を左右に飛び交う
- ・ プラズモイド内部も通過

ジェット速度 (V_x)



$\text{div } V$ - 赤色が圧縮領域



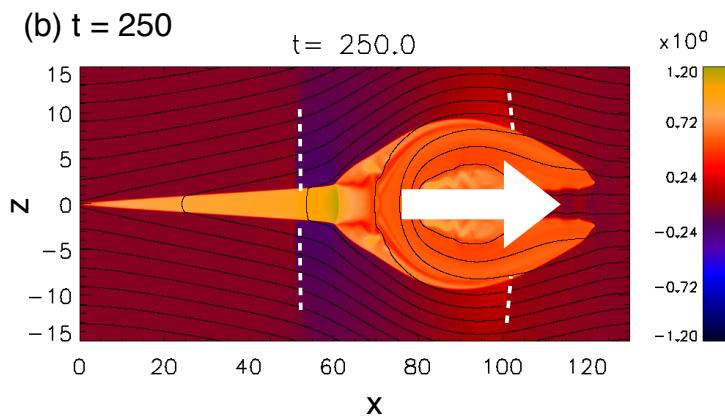
縦衝撃波：翼とのアナロジー

- 遷音速／超音速流の特徴
- プラズモイドはAlfvén速度で運動
- $\beta \ll 1$ では遷音速／超音速に

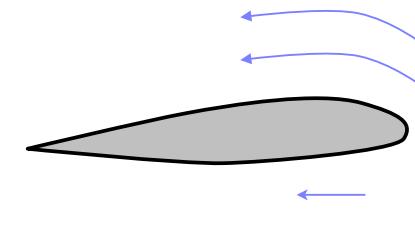
Alfvén速度

$$\frac{1}{\beta} \sim \left(\frac{c_A}{c_s} \right)^2 \sim \left(\frac{V}{c_s} \right)^2 = M_s^2$$

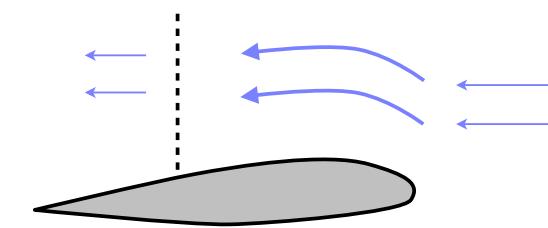
音速



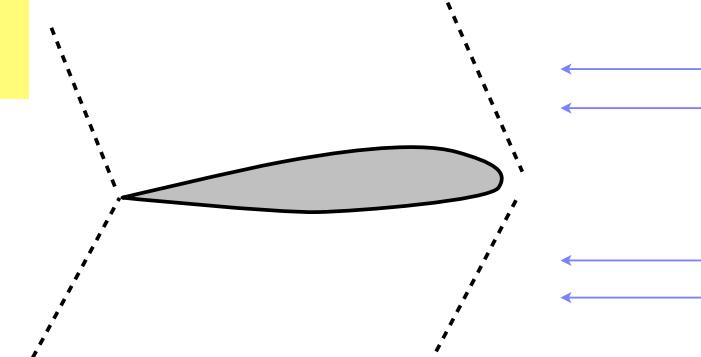
亜音速
($V \ll c_s$)



遷音速
($0.8c_s < V$)



超音速
($c_s < V$)

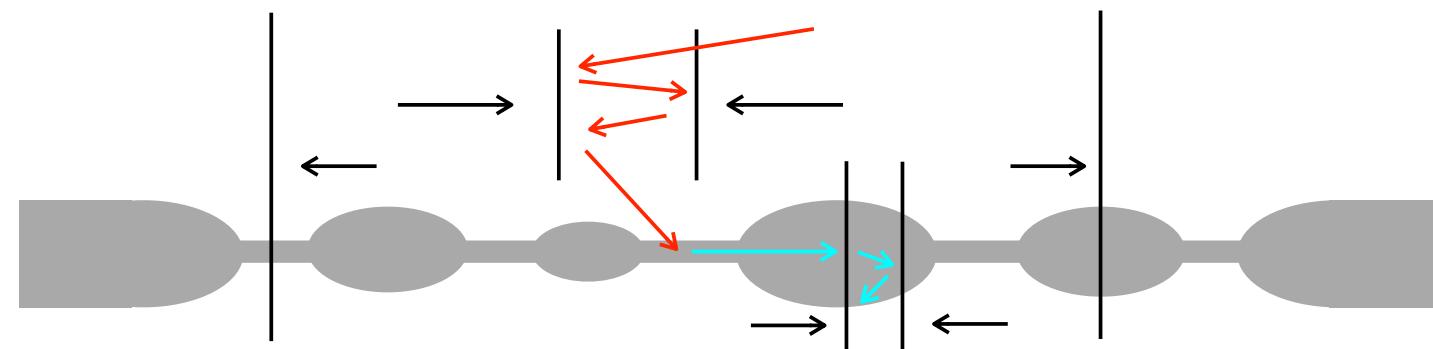


SZ & Miyoshi 2011, 2015

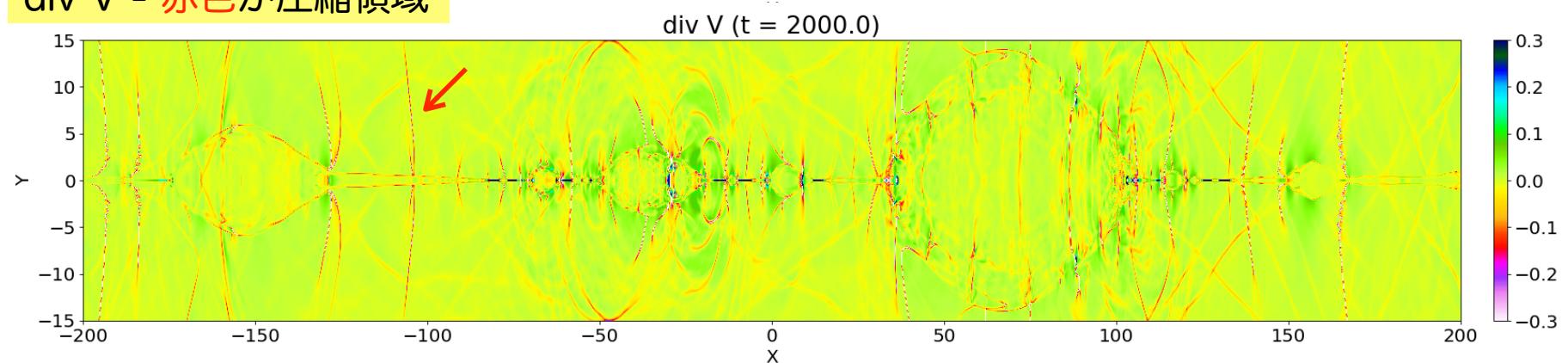
See also <https://www.youtube.com/watch?v=8OIqfCTAZQo>

縦衝撃波の役割

- ・ 粒子加速の新たな散乱体候補
- ・ 他グループのシミュレーションでも (Arnold et al. 2021)



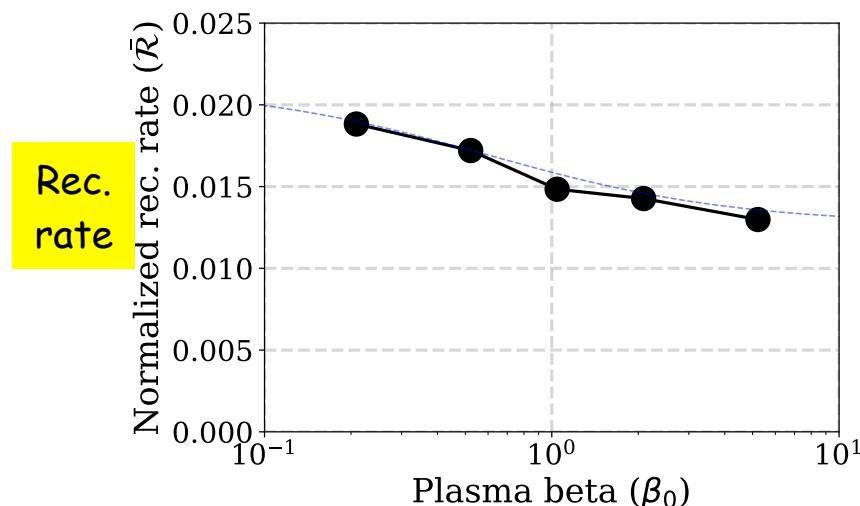
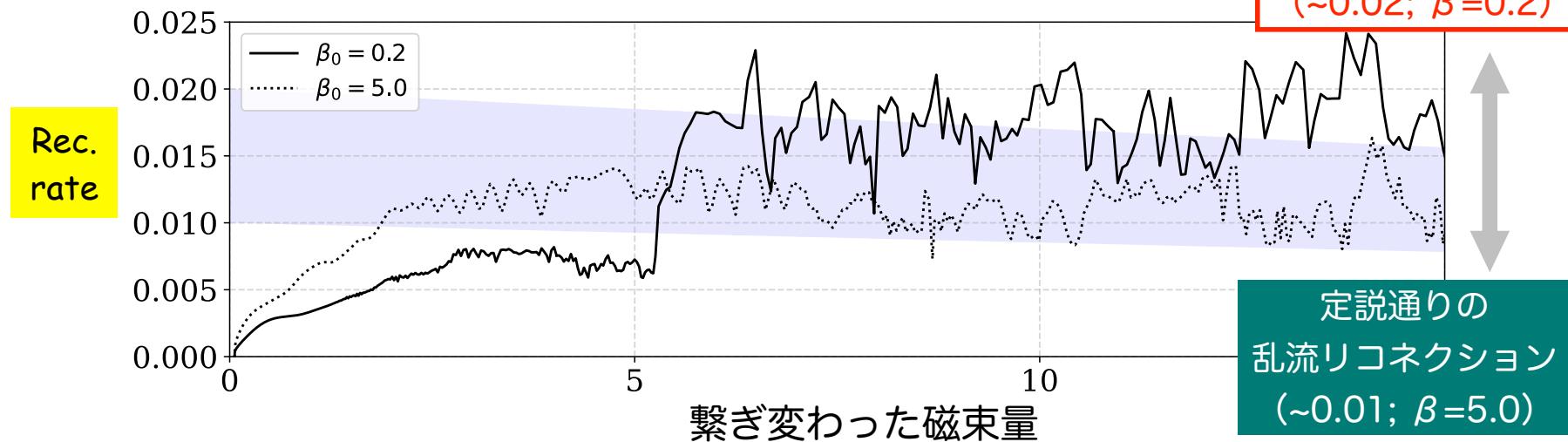
$\text{div } \mathbf{V}$ - 赤色が圧縮領域



リコネクションレート

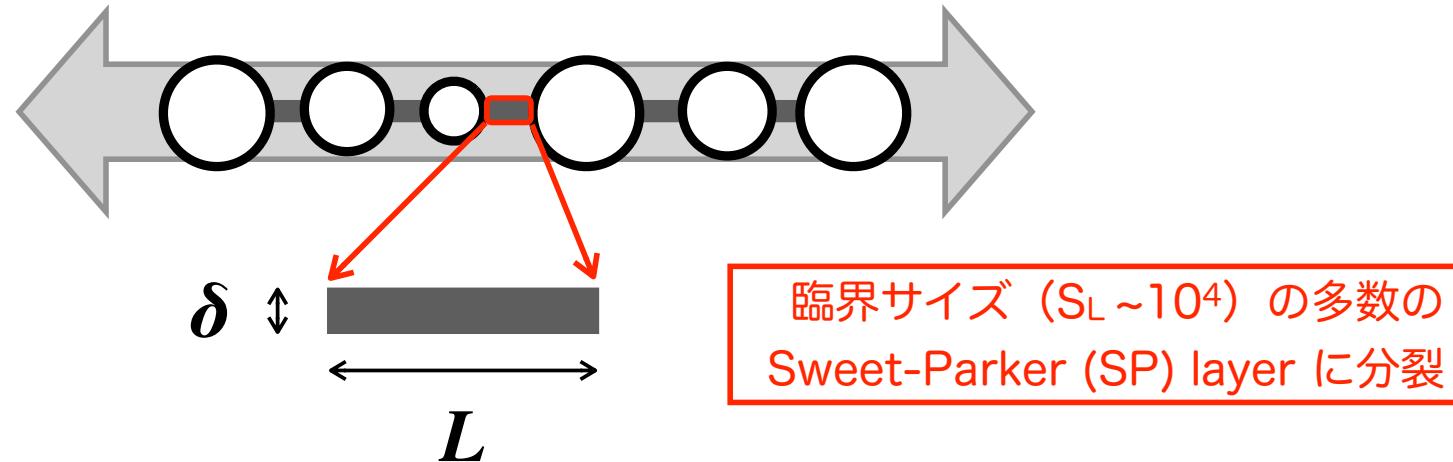
$$\mathcal{R} = -\frac{1}{c_{A0}B_{A0}} \frac{\partial\Psi}{\partial t}$$

高速リコネクション
(~0.02; $\beta=0.2$)



- 低 β ほどリコネクションが速い
- $\beta \ll 1$ ではレートは $R \sim 0.02$ に漸近
- $\beta \gg 1$ では定説通りの $R \sim 0.01$

リコネクションレートの見積もり



- 小リコネクション領域のリコネクション速度は、**プラズマ圧縮比・アスペクト比**とバランスする (Hesse+ 2011)
- アスペクト比を固定すると、**圧縮比**がリコネクション速度の加速ファクターに
- 全体のリコネクション速度もこれに比例

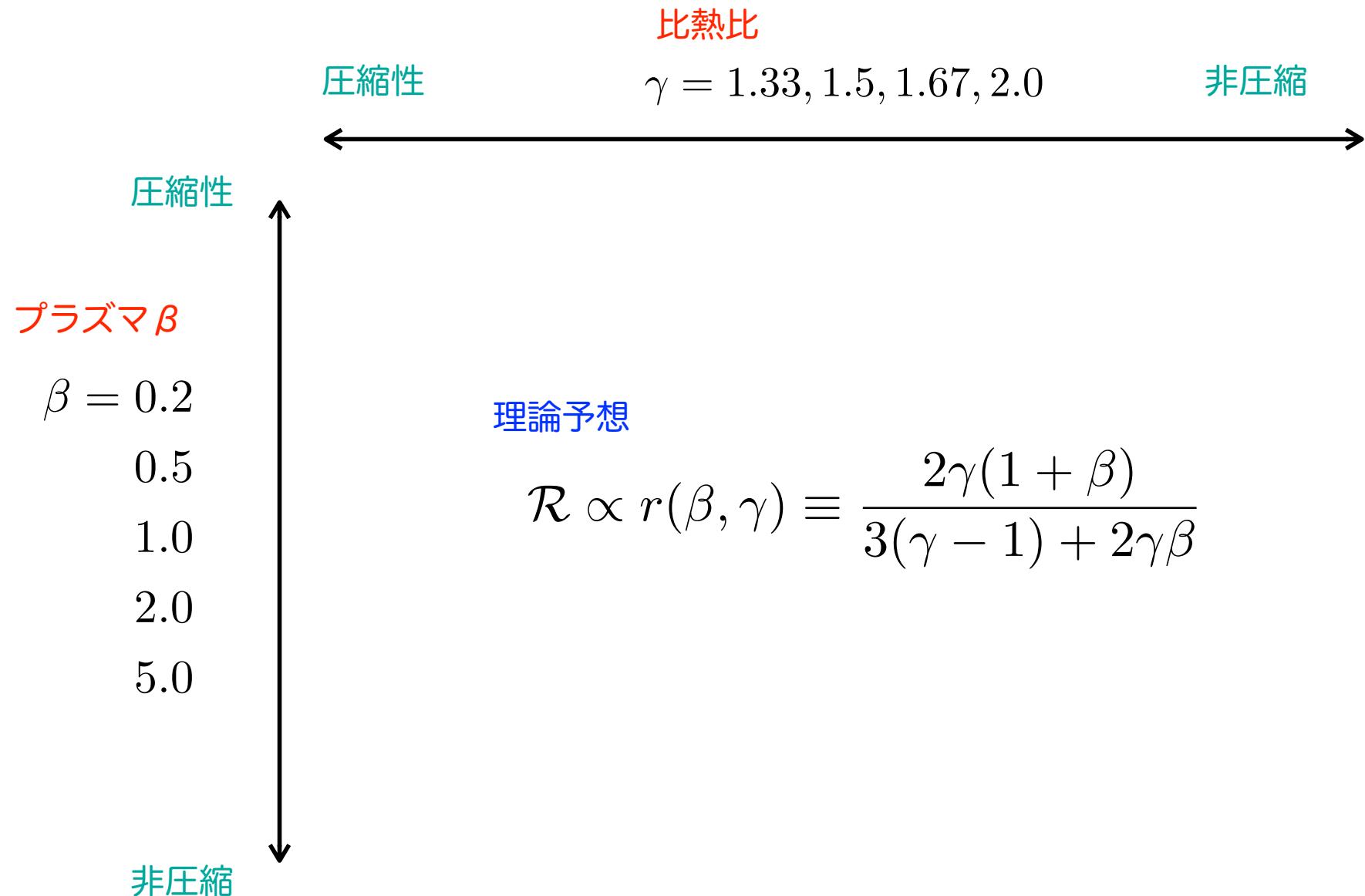
$$\mathcal{R}_{\text{sp}} \equiv \frac{v_{in}}{c_A} = \frac{2\gamma(1+\beta)}{3(\gamma-1) + 2\gamma\beta} \left(\frac{\delta}{L} \right)$$

$$\left(\frac{\delta}{L} \right) \approx S_{\text{crit}}^{-1/2} = \text{const.}$$

$$\langle \mathcal{R} \rangle \sim \mathcal{R}_{\text{sp}} \propto \frac{2\gamma(1+\beta)}{3(\gamma-1) + 2\gamma\beta}$$

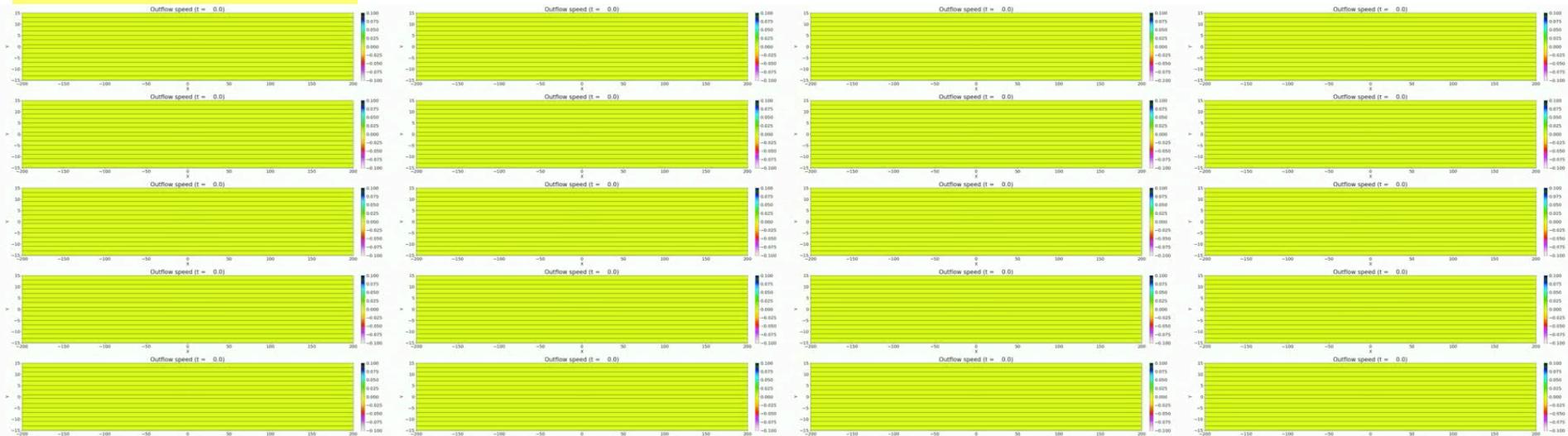
γ : 比熱比

2次元パラメータサーベイ

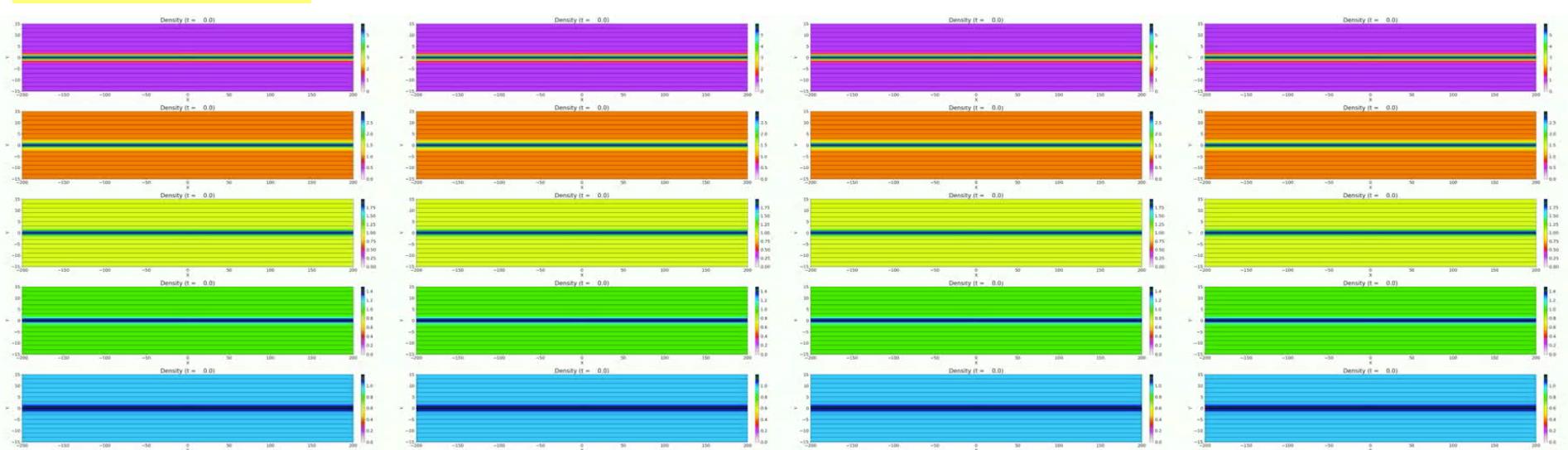


2次元パラメータサーベイ

アウトフロー速度

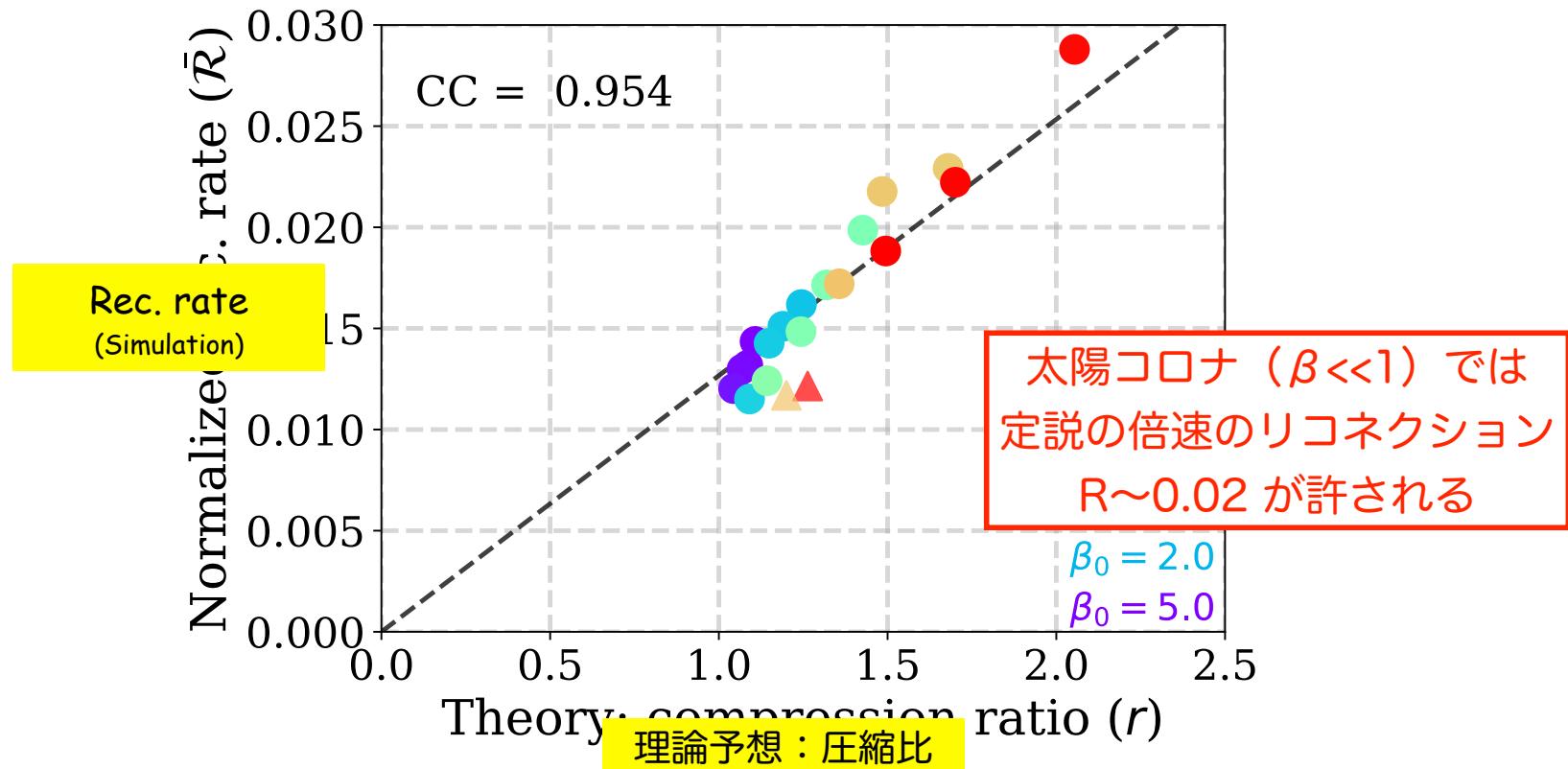


プラズマ密度

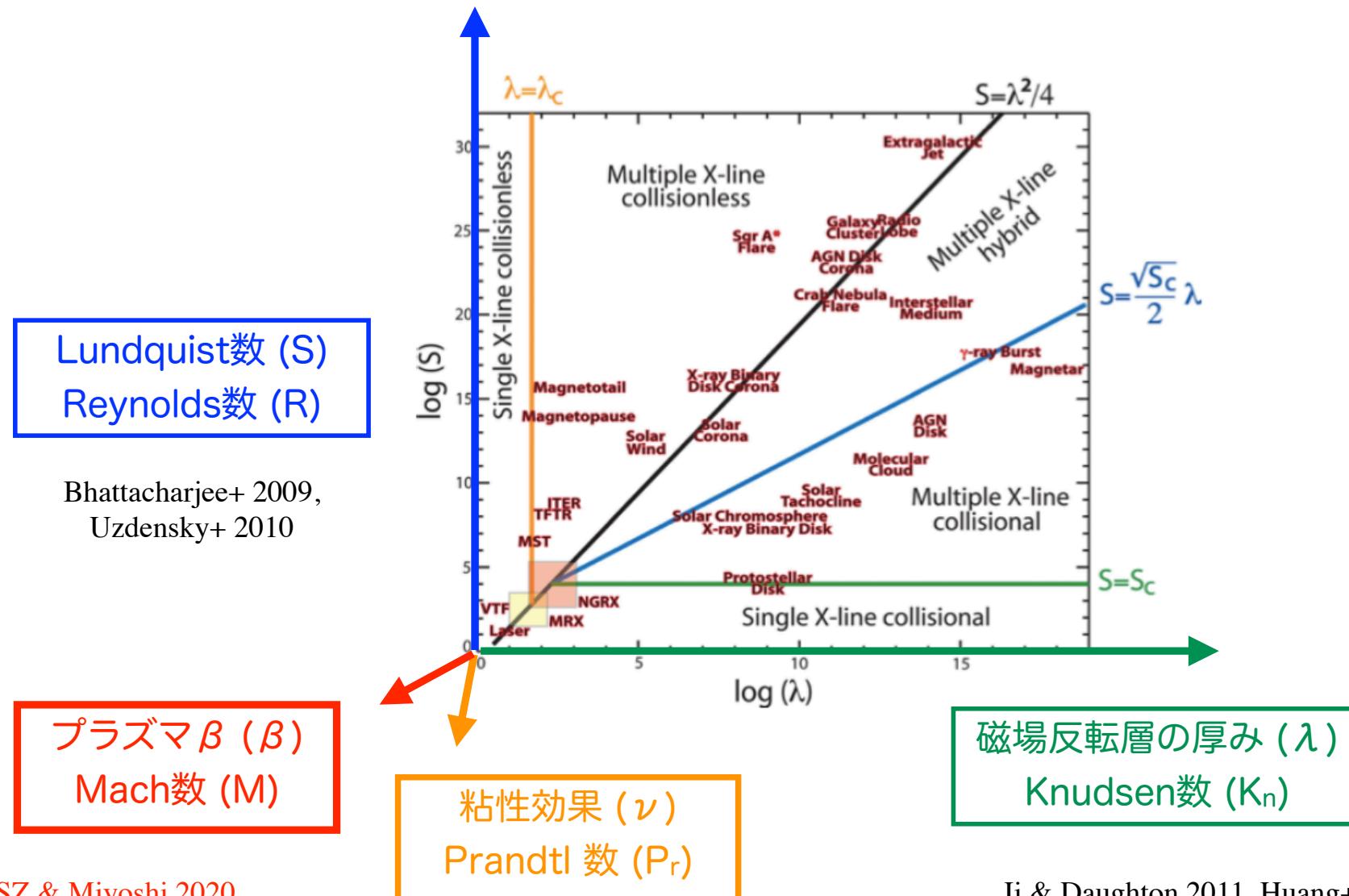


Simulation vs Theory

- 2変数 (β, r)、数十ケースのサーベイ
- リコネクションレートと圧縮比（理論値）との相関を確認
 - → 圧縮性効果によるリコネクションの高速化を示唆



磁気リコネクションのフェイズ・ダイアグラム

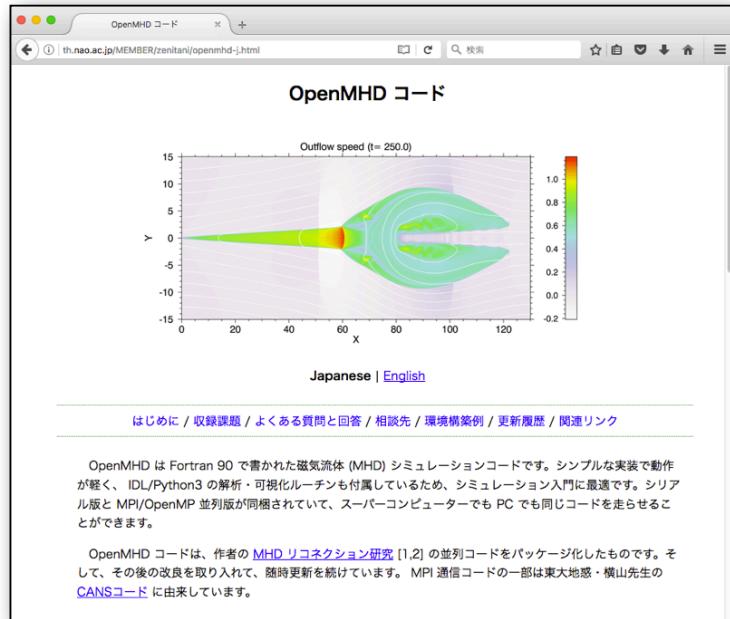


密度非対称型 プラズモイド・リコネクション

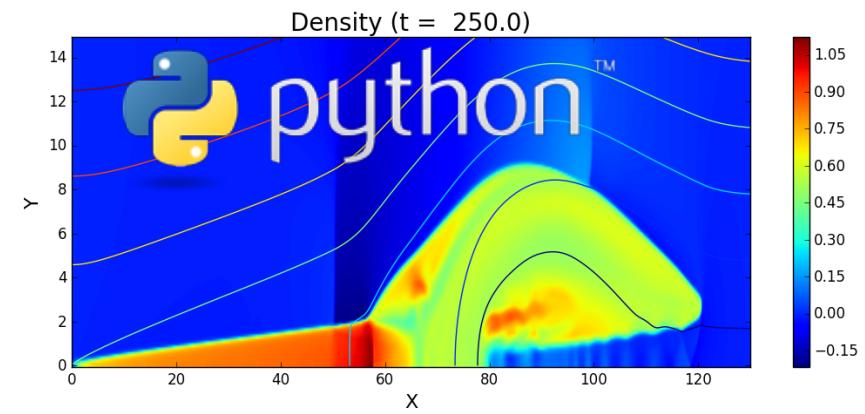
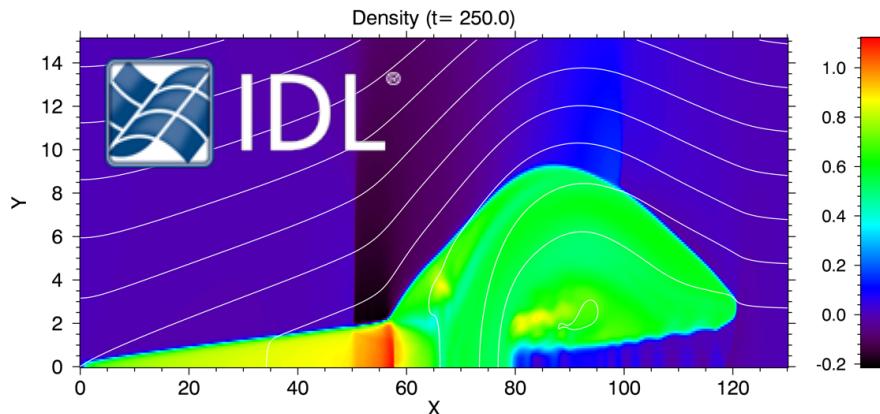
by 神戸大学修士2年：山本百華さん

公開まで
もうしばらく
お待ちください

公開コード OpenMHD



- ・ コードをパッケージ化して Web & GitHub で公開
- ・ CPU版 : Fortran 90, MPI+OpenMP
- ・ GPU版 : CUDA Fortran + MPI
- ・ Python3・IDL の可視化ルーチン
- ・ 累計11本の学術論文に



<https://sci.nao.ac.jp/MEMBER/zenitani/openmhd-j.html>

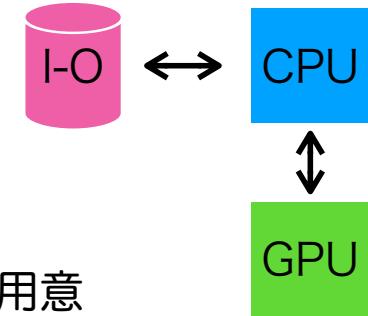
CUDA Fortran による GPU 移植

- 移植方針

- I-O 以外の主要計算ループを全て GPU 側に移動

- 移植手順

- 1. ホスト (PC) 用・デバイス (GPU) 用の変数をそれぞれ用意
- 2. サブルーチンにホスト・デバイス用の修飾子を追加
- 3. デバイス用サブルーチンへの移植。
ループの中身がデバイスサブルーチンになると思えば良い



```
call limiter(...)
```

```
subroutine limiter(...)  
    ...  
    do j=1,jx  
        do i=1,ix  
            ...  
        enddo  
    enddo
```

```
call <<<dim3, dim3>>>limiter(...)
```

```
attributes(global) &  
subroutine limiter(...)  
    ...  
    j = (blockIdx%y-1)*blockDim%y + threadIdx%y  
    i = (blockIdx%x-1)*blockDim%x + threadIdx%x  
    if( (1<=j).and.(j<=jx) ) then  
        if( (1<=i).and.(i<=ix) ) then  
            ...  
        endif  
    endif
```

OpenMHD-GPU ベンチマーク

計算時間

(分)

75

50

25

0



高速

1 core 4 cores (MPI)

9

6

3

0

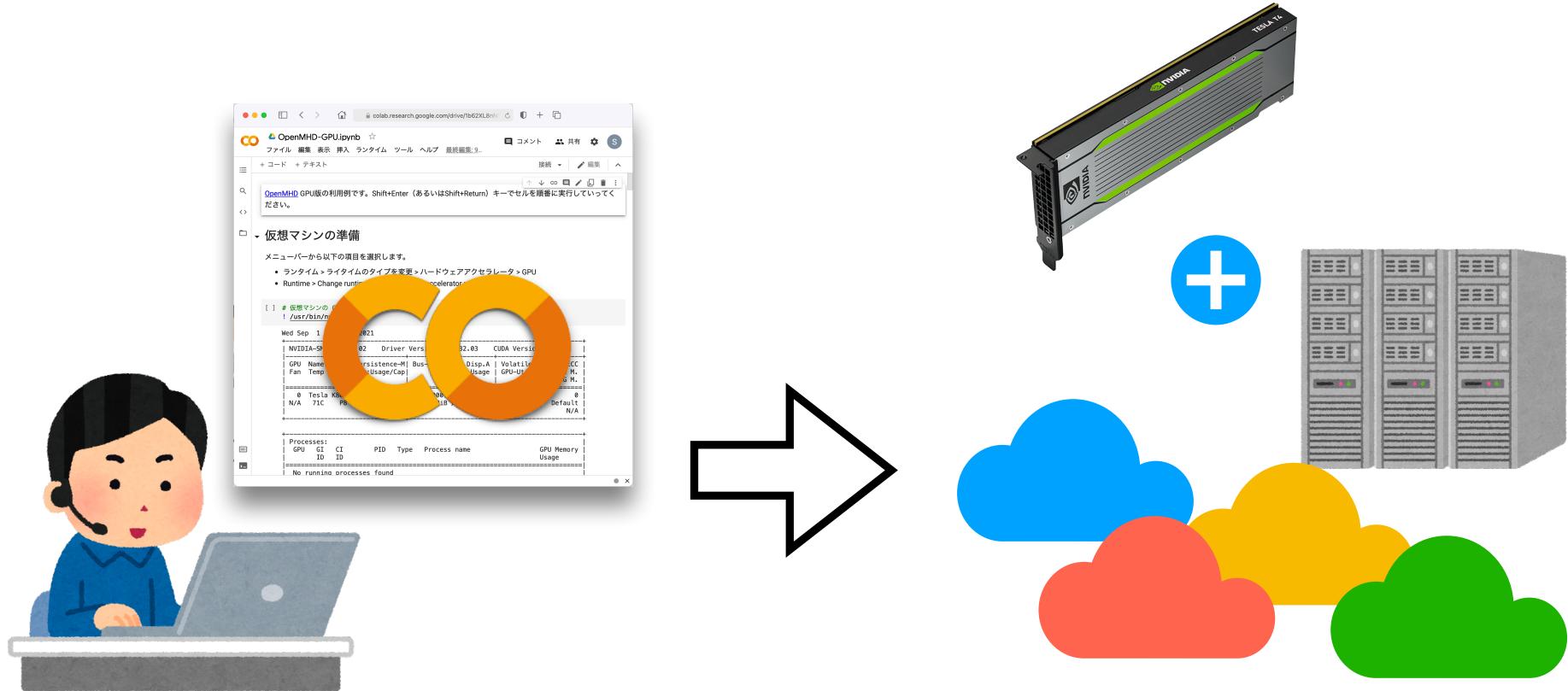
最大125倍速



核融合研 国立天文台
データ解析 CfCA
サーバ GPU試用機

- Intel core i9-9900K
3.6GHz - 5.0GHz

Google Colaboratory



- ・ ブラウザで操作
- ・ Jupyter ノートブック
- ・ Googleクラウド上の仮想マシン
- ・ GPUインスタンスも利用可

Google Colaboratory

The screenshot shows a Google Colaboratory notebook titled "OpenMHD-GPU.ipynb". The notebook interface includes a toolbar with file operations like "コメント" (Comments), "共有" (Share), and "最終編集: 9..." (Last edited: 9...). Below the toolbar is a code editor with tabs for "+ コード" (Code) and "+ テキスト" (Text). A message box displays the text: "OpenMHD GPU版の利用例です。Shift+Enter (あるいはShift+Return) キーでセルを順番に実行していくください。" (This is an example of using the OpenMHD GPU version. Press Shift+Enter (or Shift+Return) to execute the cells in sequence.).

□ 仮想マシンの準備

メニューから以下の項目を選択します。

- ランタイム > ライタイムのタイプを変更 > ハードウェアアクセラレータ > GPU
- Runtime > Change runtime type > Hardware accelerator > GPU

```
[ ] # 仮想マシンの GPU を確認します。
! /usr/bin/nvidia-smi
```

Wed Sep 1 16:19:55 2021

NVIDIA-SMI 470.57.02		Driver Version: 460.32.03		CUDA Version: 11.2	
GPU	Name	Persistence-M	Bus-Id	Disp.A	Volatile Uncorr. ECC
Fan	Temp	Perf	Pwr:Usage/Cap	Memory-Usage	GPU-Util Compute M.
					MIG M.
0	Tesla K80	Off	00000000:00:04.0	Off	0
N/A	71C	P8	31W / 149W	0MiB / 11441MiB	0% Default N/A

Processes:					
GPU	GI	CI	PID	Type	Process name
ID	ID				GPU Memory Usage
No running processes found					

<https://colab.research.google.com/drive/1b62XL8nN5W7oxPTCiYPH8M265JQ5gZla?usp=sharing>

まとめ

- ・ プラズモイド型乱流リコネクションの
MHDシミュレーション
 - ・ 磁気圧優勢：低 β ($\beta < 1$) の場合：
 - ・ 縦衝撃波の生成
 - ・ プラズマ圧縮効果によるリコネクションレートの高速化
 - ・ $\beta \ll 1$ では倍速の $R \sim 0.02$ に
 - ・ 密度非対称の場合：スケール則が見えてきた
- ・ OpenMHD
 - ・ コード公開中、GPU対応、クラウドでも動作
- ・ Future
 - ・ 2D磁場非対称・3D・熱伝導 ...